

# NPO 福祉用具ネット設立 10 周年記念イベントの報告

NPO 福祉用具ネット理事 左 広美

2002 年 11 月に誕生した、NPO 福祉用具ネット。その「創立 10 周年記念イベント」が、去る 9 月 7 日土曜日に開催されました。この記念行事の開催についてはおよそ 1 年前から、理事会で何度も話題にあがりどのような形で開催するのか議論を重ねてまいりました。しかし、議論はするもののなかなか具体案はあがらずに、気持ちは焦るばかりでした。ついにやってきた開催当日。幸いお天気にも恵まれました。さらに、当初予定していた会場の確保が危ぶまれていたにもかかわらず、第一希望通りの会場を使用できるというラッキーハプニングに恵まれた開催となりました。

記念イベントでは、豊田謙二理事長による開会の挨拶後、①NPO 福祉用具ネットフォトストーリー ②基調講演 ③シンポジウムというプログラムで進行しました。以下にその様子をご報告いたします。



当日の来場者は 134 名

## ① NPO 福祉用具ネットフォトストーリー

会場前面のスクリーンにプロジェクターから映写された 10 年間の写真の数々。そこに、大山さんから書き込まれたメッセージ。それは、まさに走馬燈を見ているようで、数多くの出来事があったものだと感慨深いものがあり、思わず目頭があつくなりました。

② **基調講演** ; 橋元隆先生（九州栄養福祉大学リハビリテーション学部 小倉南区キャンパス副学長）テーマ；「事例から学ぶ自立（律）支援～機能障害と生活障害～」をご講演していただきました。そこで「自立の目



左から豊田理事長と橋元先生

的は単なるサービスの提供ではなく、問題（課題）の解決であり、満足度の高い生活の実現である。」という先生の言葉が印象的でした。「この方が～できるように支援」をするのではなく、「この方ご自身が本当に満足す

るとはどういうことなのか」を探り、それが実現できるお手伝いをするのが真の自立の目的となるのだらうと思いました。

③ **シンポジウム** テーマ；「現場からの実践報告 福祉用具の活用と課題」

コーディネーター；豊田謙二理事長

コメンテーター；橋元隆先生

シンポジストは4名です。

スターターの、筑穂桜の園施設長である中嶋香寿美さんからは、施設の紹介をしてもらいました。こちらの施設は筑豊地域では珍しい小規模ユニット型の特別養護老人ホームです。小規模ユニット型ならではの、きめ細かなサービスが提供されています。次に、佐野征子さん。ご主人が交通事故に遭われ寝たきりとなり、それから約15年間、介護を続けておられます。ご主人にとってハッピーな介護を求め続けた結果、例えば食事介助では、

まずは佐野さん自身がご飯を食べ終え、満足をした状態でご主人の食事介助を始める。というように、無理をしすぎず自分が楽しめる生活環境作りをすることだということに辿り着いたということでした。そして、康和会りんごケアプランセンター管理者である西村静子さんは、事例をとおしていくつかのことを学ばれたとのことでした。そのうちの一つは、「些細な問題でもそれに専門家が気づき、見過ごさない姿勢が大切であり、そこでやれることがあればやってみることで、その問題が解決できることにつながる。」ということを学ばれたそうです。最後にあおぞらの里行橋訪問看護ステーション 理学療法士の井内陽三さんは、訪問リハビリについて説明をしたのちに、事例を交えながら福祉用具導入過程での課題について述べ、在宅分野のリハビリ専門職に期待されていることは「情報の提供者になること」「生活支援の専門職になること」という提案がされました。

閉会の挨拶を吉村恭幸理事が行い、この日の記念行事は幕を閉じました。最後になりましたが、当日は、叱咤激励をはじめ、福祉用具開発のアイデア、PRの方法など実に数多くの感想をいただきました。そして、次のようなうれしいメッセージをいただきました。『これほどまでに田川を拠点としてパワフルに活動されている法人があること大変うれしく思います。』田川のみならず筑豊地域、九州、全国展開で動いているNPO福祉用具ネットです。今後とも皆様のお力添えをいただけますようによろしくお願い申し上げます。



左から中嶋さん、佐野さん、西村さん、井内さん



お祝いの品々や電報をありがとうございました。